

備前市事務事業評価シート

(平成20年度事業)

事業の概要			
事業開始年度		S46~	
総合計画	大項目	基本目標	04
	中項目	基本施策	03
	小項目	施策	01
事務事業名		05	観光施設整備事業

事業の実施	
対象 (誰・何に対して)	観光客
目的 (何のために)	観光資源を活かすために、有効な観光施設を整備し誘客を図る。
行政活動 (どのような方法で)	夕立受山等整備事業、国立公園協会負担金事業、海水浴場の整備、古代体験の郷まほろば屋根の葺き替え、八塔寺民族資料館屋根の葺き替え
事業の意図する成果 (どのような状態にしたいのか)	観光施設的环境整備

事業の実績					
活動	実施項目	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	負担団体数	団体	1	1	1
	海水浴場の整備	箇所	2	3	3
	まほろば屋根の葺き替え	棟	3	0	0
	八塔寺民族資料館屋根の葺き替え	棟	1	0	0

実績	事業費		千円	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	直接	事業費		17,670	598	556
	必要	人員費	0.38人	3,345	0.06人	465
	事業	費計		21,015	1,063	1,031
	財源	国	県	支	出	金

結果指標①	結果指標名	単位	平成18年度実績	平成19年度実績	平成20年度実績
	観光施設整備箇所数	箇所	6	3	3
	対前年比	%	-	50.0%	100.0%
	活動コスト	円	21,015,000	1,063,000	1,021,000
	単位当たりコスト	円	3,502,500	354,333	340,333

事業の成果					
成果指標名	年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	到達目標値
観光施設整備箇所数	目標値 (A)	1以上	1以上	1以上	1以上
	実績値 (B)	6	3	3	到達目標年度
	達成率 (B/A)	-	-	-	適正年度
成果指標設定の考え方・式や説明					
観光施設の適正な整備					

事務事業の評価		妥当性評価<A~E>	C
妥当性の評価	市の関与の妥当性	<input type="checkbox"/> 市が実施するよう法令で義務づけられている <input type="checkbox"/> 法令で義務づけられていないが、実施しなければ大半の市民の日常生活に支障をきたす <input type="checkbox"/> 現在市が実施しているが、実施しなくても市民の日常生活に支障をきたさない <input type="checkbox"/> 事業の内容が一部の受益者に偏っている <input type="checkbox"/> 対象者は限定的であるが社会的弱者等を対象としている <input type="checkbox"/> 現在の市を取り巻く環境からも目的・意図する成果は妥当である <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的から変化してきている <input type="checkbox"/> 事業開始当初の目的は、ほぼ達成されている <input checked="" type="checkbox"/> 厳しい財政状況であるが、実施する必要がある <input type="checkbox"/> 類似した事業がある	優れた観光資源を有効に活かすため、施設整備を図り誘客に結びつけることが重要である。
	市民ニーズ	<input type="checkbox"/> 市民・団体等から要望・要請が強い	
効率性の評価	コスト	<input checked="" type="checkbox"/> 単位当たりコストは前年度と比較して改善している <input type="checkbox"/> 実施方法（派遣・委託等）を見直すことでコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> 事務の電子化や事務改善によりコストを下げる余地がある <input type="checkbox"/> コスト削減の努力はしているが、下がる余地は小さい <input type="checkbox"/> 受益者負担率は適正である <input type="checkbox"/> 受益者負担率を見直す余地がある <input type="checkbox"/> サービスを維持するためこれ以外、他に手段が見当たらない <input type="checkbox"/> 現在の手段は過剰なサービスのため、改善の余地がある <input type="checkbox"/> 最適な手段を求めて職場内で改善・研修に努めている	効率性評価<A~E>
	目的達成度	<input type="checkbox"/> 成果指標の設定は適切である <input type="checkbox"/> 成果指標の目標値は目標年度に達成できそうである <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は前年度と比較して向上している <input type="checkbox"/> 成果指標達成率は80%未満となっている <input type="checkbox"/> 現在の事業を継続しても成果指標の向上は期待できない <input type="checkbox"/> 事業について積極的にHPや広報等で情報提供している <input checked="" type="checkbox"/> 事業実施等で積極的に市民意見を反映させる仕組みがある <input type="checkbox"/> 事業にはNPO、ボランティア団体等が参画している <input type="checkbox"/> 事業のプランづくりから市民参加を得る手段をとっている	判定理由・課題認識
有効性の評価	市民参画度		有効性評価<A~E>
			C
		判定理由・課題認識	事業効果と維持管理を考察し、可能な限り施設の充実を図る必要がある。

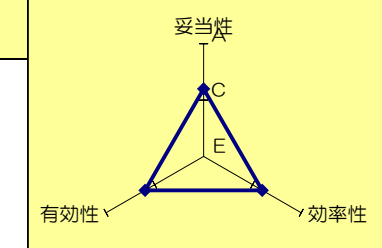
事業の目的、対象、内容を考えながら目的妥当性の評価を行って下さい。

事業費や単位当たりコストに留意しながら効率性の評価を行って下さい。

事業の目的やその数値目標である成果指標に留意しながら有効性の評価を行って下さい。

平成21年度の状況						
目標値	結果指標量①	3	結果指標量②	成果指標量	1以上	
状況	拡充	○	現状継続	見直し	縮小	整理統合
説明	費用対効果を考えながら、計画的に事業を進めて行く必要がある。					

総合評価		評価区分<A~E>	C
全国的に誇れる優れた観光資源を有効に活かすため、施設整備を図り誘客に結びつけることが重要である。また、費用対効果を検証するとともに、施設整備を年次的に計画性を持って行う必要がある。			



平成22年度以降の方向性・内容						
方向性	拡充	○	現状継続	見直し	縮小	整理統合
説明	平成22年度には「まちづくり交付金事業」の一環としてJR赤穂線伊部駅南口駐車場整備工事が予定されている。それ以後においても施設整備を年次的に進める必要がある。					
改善がある場合	評価の視点	改善内容	改善時期	改善により期待される効果		
	効率性	既存建築物の効率的な管理運営を検証する。	随時	適正な管理と観光客の増加		